ベンチャー

キラ星企業

―多摩発―

アドバンスデザインテクノロジー

最先端のＬＳＩ開発

秘伝の技術力、大手と競う

大規模集積回路（ＬＳＩ）開発技術にソフトウエアの開発技術を組み合わせ、独自のシステムＬＳＩの企画、設計開発で大手半導体メーカーを支え、同時に手ごわいライバルに成長しつつあるのがアドバンスデザインテクノロジー（東京都府中市）だ。ＬＳＩの高集積・高速・省電力化など高度なニーズに応える同社は、工場を持たない「究極のファブレス企業」をめざし躍進している。

同社はＬＳＩの回路設計や評価業務の受託、大手との共同開発を主力としてきた。電子機器システムの設計・製作を中心に幅広く手がけ、カーナビシステムのＬＳＩや高速インターフェース、デジタル・アナログ混在ＬＳＩを得意とする。

また基本ソフト「リナックス」の関連製品や高度画像圧縮システム、インターネット通信システムなどを提携企業と共同開発。次世代携帯電話、音声合成システム、次世代インターフェースなどのシステムを開発した技術力は定評がある。

技術力の源泉は理論と実用の融合ともいえる。例えば画像処理をワンチップで行う画像チップ。「アルゴリズム（数学的計算手順）を電気回路に置き換えるソフトは数学者ができてもハード化、つまりＣＰＵ（中央演算処理装置）ボードに組み込むＬＳＩを作るのは企業であり、当社の出番」（須田仁専務）となる。

現在進めている戦略プロジェクトは「カード型の超小型ＣＰＵボード」の開発。カード大のボードでＬＡＮやＵＳＢ、メモリーカードなどが搭載できるノートパソコン並みの機能を持たせる。新兵器だ。

技術面の課題はほぼ解消しており、低コストでの量産化に向け開発を急いでいる。実用化すれば工場などに設置する保安装置の要になる。衛星経由で得た地震情報を工場などいち早く伝えて、機械を緊急停止させるなどの用途が期待される。

こうした装置の性能はあらゆるデジタル信号を省電力、高速で演算するデジタル・シグナル・プロセッサー（ＤＳＰ）に左右される。最近の同社はこの分野では大手と競う技術力をつけ、時には大手が下請けの役割を担う場面さえある。

最先端のＬＳＩ開発は当然、高い技術レベルが求められるが、「同時に技術者同士や顧客とのひざ詰め談判から生まれる職人のひらめき、秘伝のノウハウが生きる世界」（須田専務）。だから人材育成には力が入る。今春、社員五十人の同社は大手派遣会社と提携、三十人もの新卒派遣技術者が加わった。九月には首都大学東京日野校でのマッチング会で「無電源の監視装置による無線通信システムの共同開発」を大学院生に呼びかけた。

ＬＳＩというパソコンや携帯端末などのキーデバイスで蓄積した技術を基に、セキュリティー分野などで新たな市場を生み出している同社。創業以来、倍々ペースで売り上げを増やし七年目で五億四千万円を確保した。

高橋純樹社長は「二〇〇七年六月期もセキュリティー分野の制御システムの市場開拓を中心に、売上高九億円と倍増を見込んでいる。四、五年先の店頭公開も視野に入ってきた」と言い切った。

（多摩支局　鈴木純一）

高橋純樹社長

《会社概要》

▽本社	東京都府中市寿町１－１－３三ツ木寿町ビル
▽社長	高橋純樹氏（46）
▽電話	042・354・3460
▽売上高	５億4000万円（2006年６月期）
▽従業員数	50人
▽事業内容	電子機器・半導体デバイスの企画、設計開発、評価、販売

ＬＳＩのデザインを設計する若手社員

2006年11月1日 日経産業新聞